

芳
虎
画

種彦作

錦昇巻棒

廿二編下

~ 13
3730
44

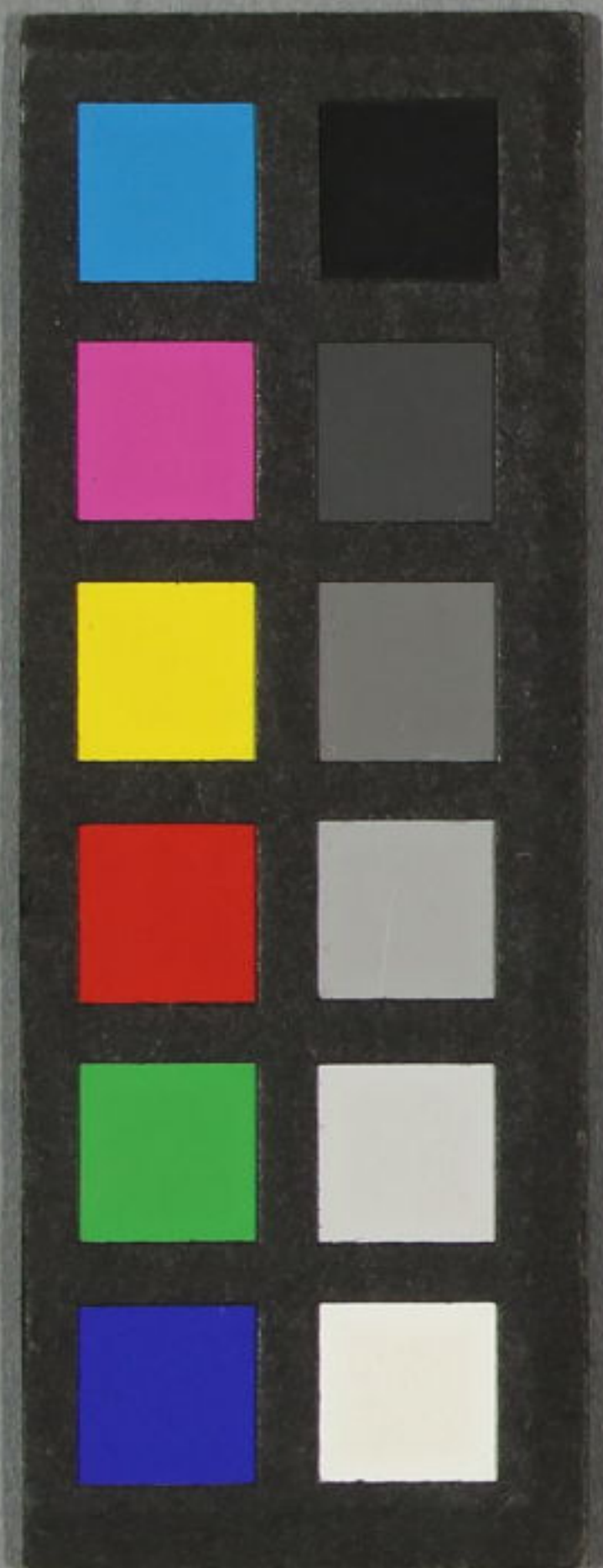


其
玉
那
の
花
の
芳
か

廿二編上

~ 13
3730
43





其
玉
那
の
花
か
る

廿二編上

火の君

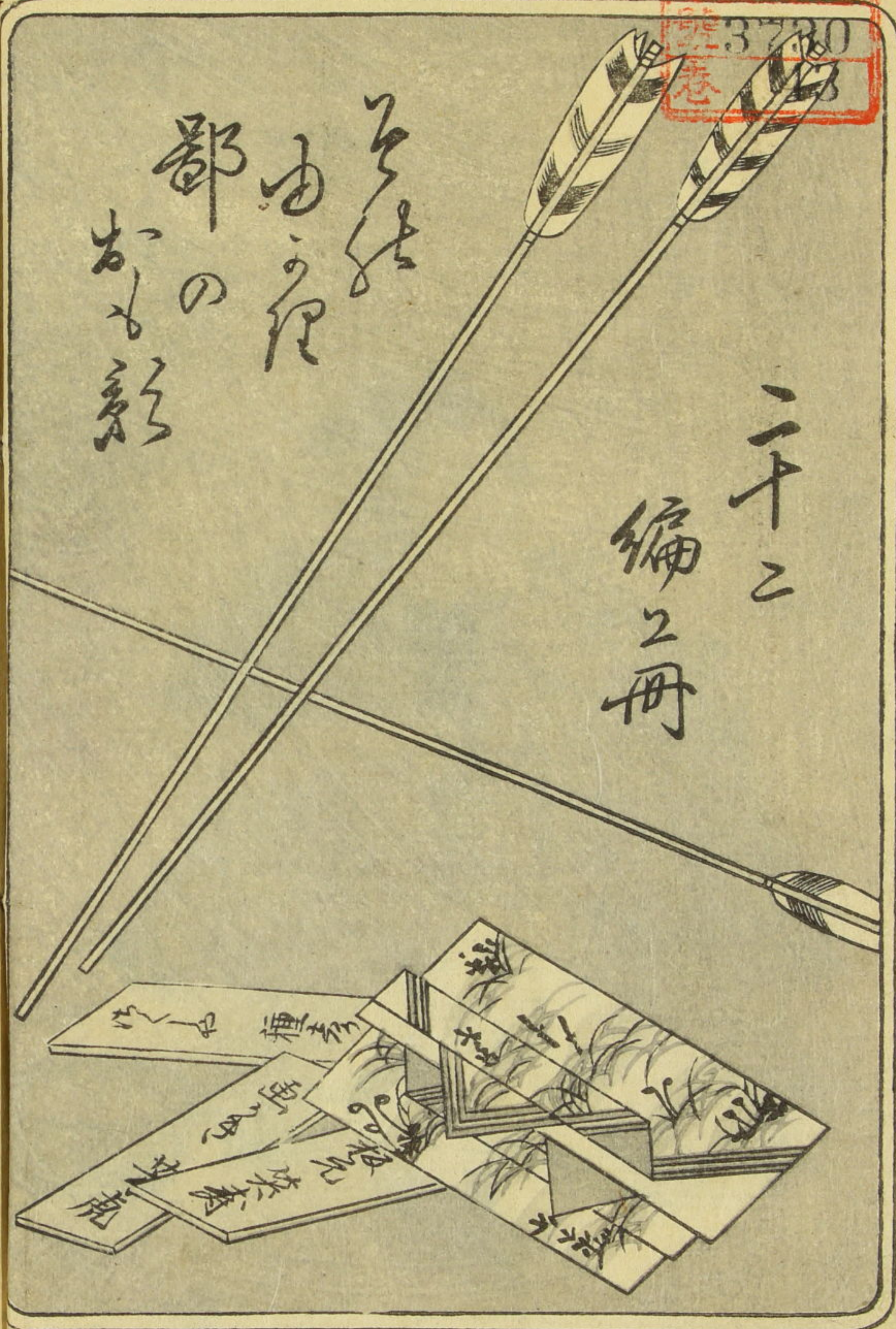
~ 13
3730
43





卯子二

門 13
 3780
 卷



あはれなるわかれをせむるまきりた
くらゆるわかれをせむるまきりた

あはれなるわかれをせむるまきりた

あまきりた

あまきりた

あまきりた

應齋

文来

書

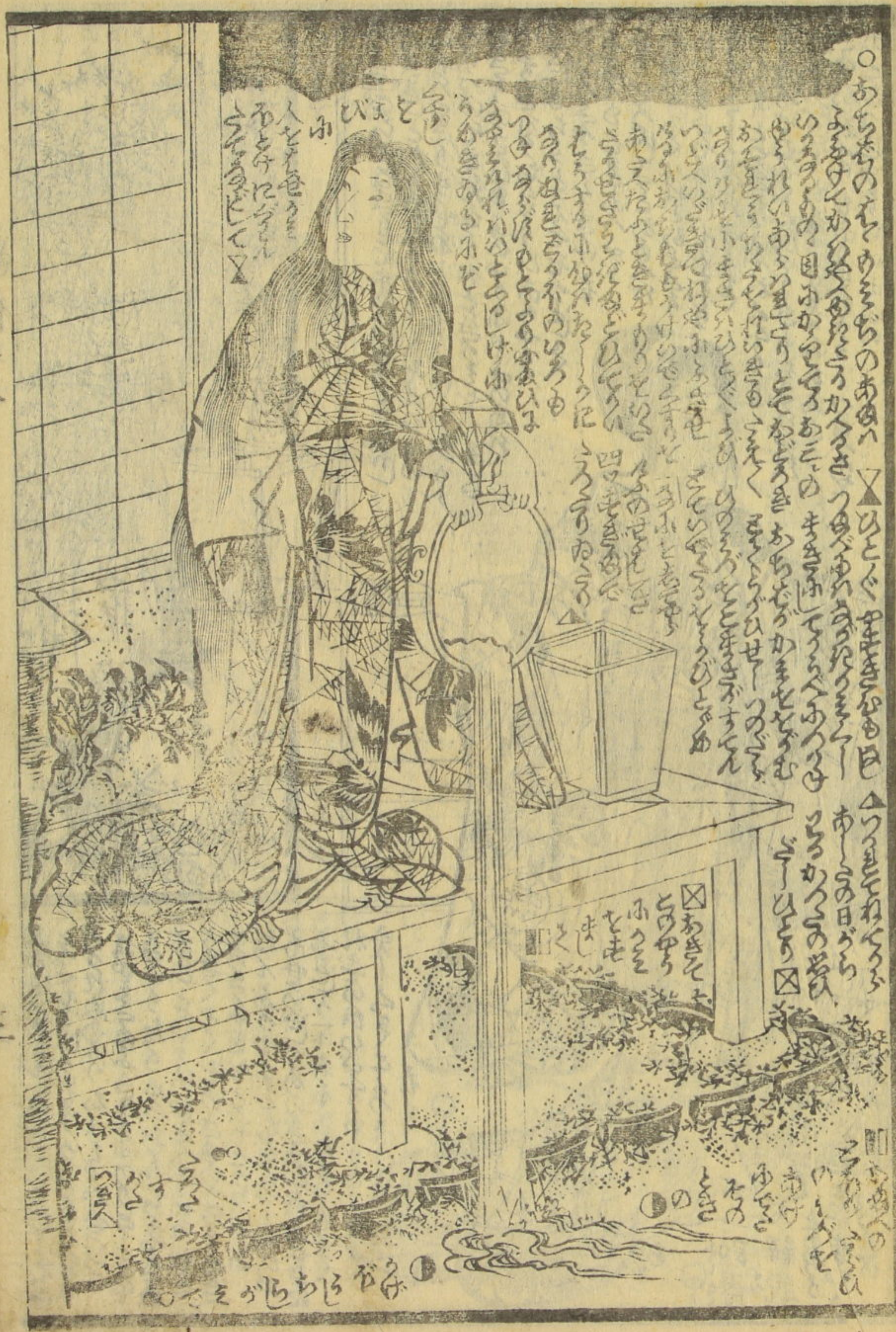
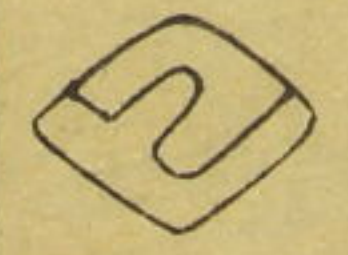


あはれなるわかれをせむるまきりた
足利雲井之煎氏仲



凡紫文五十四帖と四季小公と桐壺より須摩
 明石の辺まゝの若木の桜花さく春めくそ色より
 聖衣多箱火のりい夏乃衣袖軽くさうくとんちやく
 名い若菜こそも賀の祝柏木も落葉して鈴虫夕ざりと
 卷々の教重き人々の年齒とこもに老ゆきて秋野の千草も
 花いほれど湿りがちやく光沢うきく砧の槌乃トしく拍子
 の画冊子小記て上手業もて興あつとを面白くぬを
 得心にて前との續と見弁ありぬ愛顧と杖の翁乃舞あり
 宇治十帖の十月うら狂咲よ若やきて一陽來復の人替白薫
 の若者揃小二番目めいさ仕組の腹豪發兌の時節も遠く
 後極て悲傷幻と御法の巻も株を守らばと守て目出う
 案趣考も不図浮くは忘れぬらはと此編の緒言小御約束
 つつ々々こまきつづ本文の
 模書小わらんやす

柳亭種彦

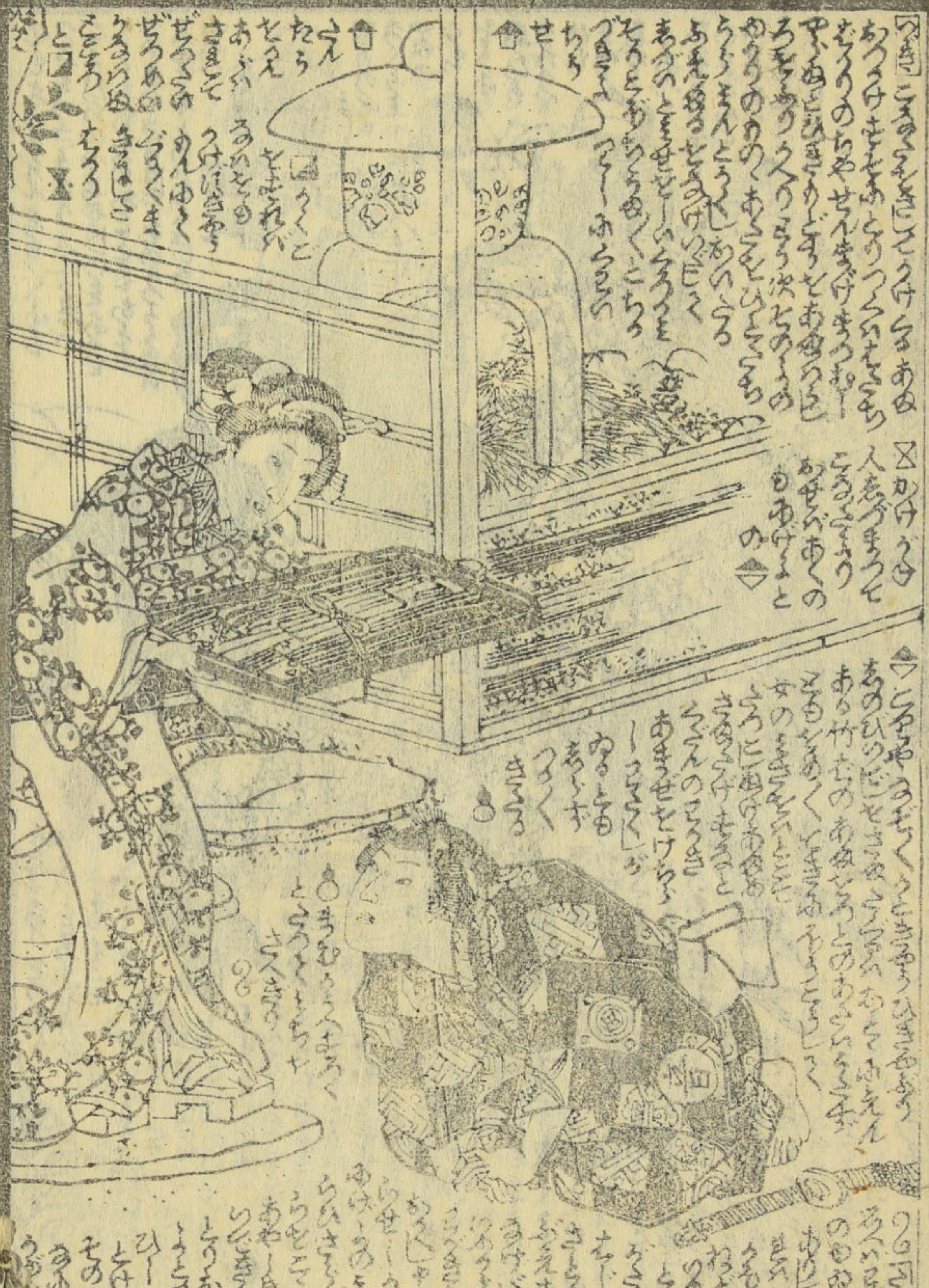


柳亭種彦

二



あはれとて
あはれとて
あはれとて
あはれとて
あはれとて
あはれとて
あはれとて
あはれとて
あはれとて
あはれとて



あはれとて
あはれとて
あはれとて
あはれとて
あはれとて
あはれとて
あはれとて
あはれとて
あはれとて
あはれとて



目録

七



種彦作芳虎画

其由縁部何

竹身七毛子の脚

上脚用竹片水竹

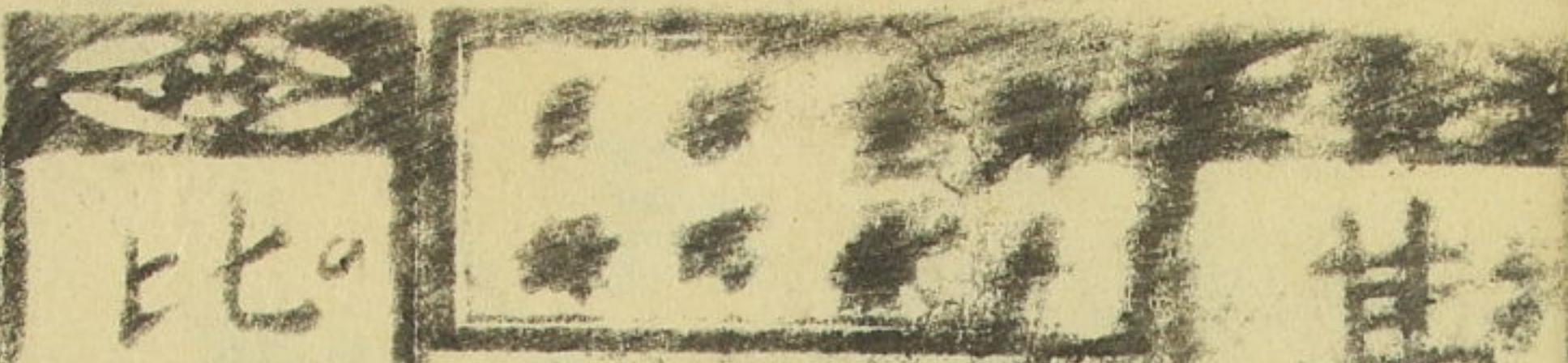
和皮履四谷物

六脚用竹片水竹

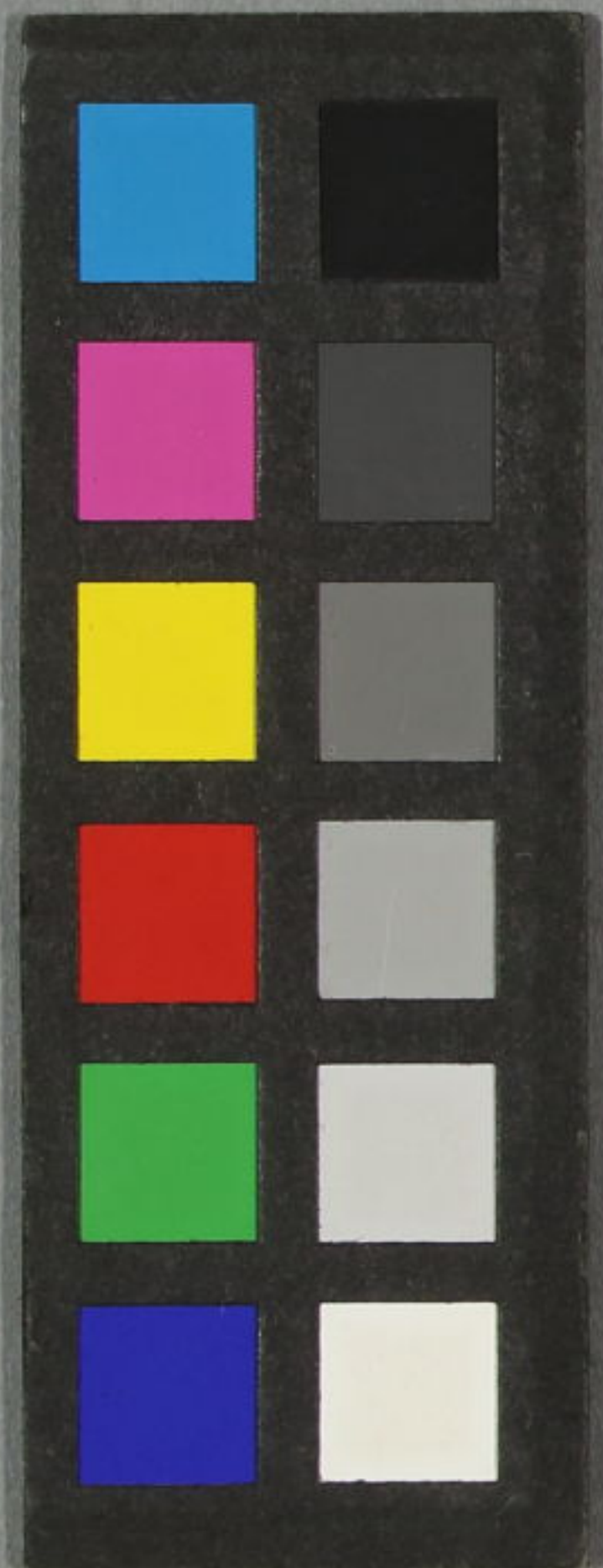
比奈乃都大内譚

一編一傳一傳一傳

地本竹...







芳
虎
画

種彦作

白
錦
昇
巻
棒

廿二
編下

~ 13
3730
44

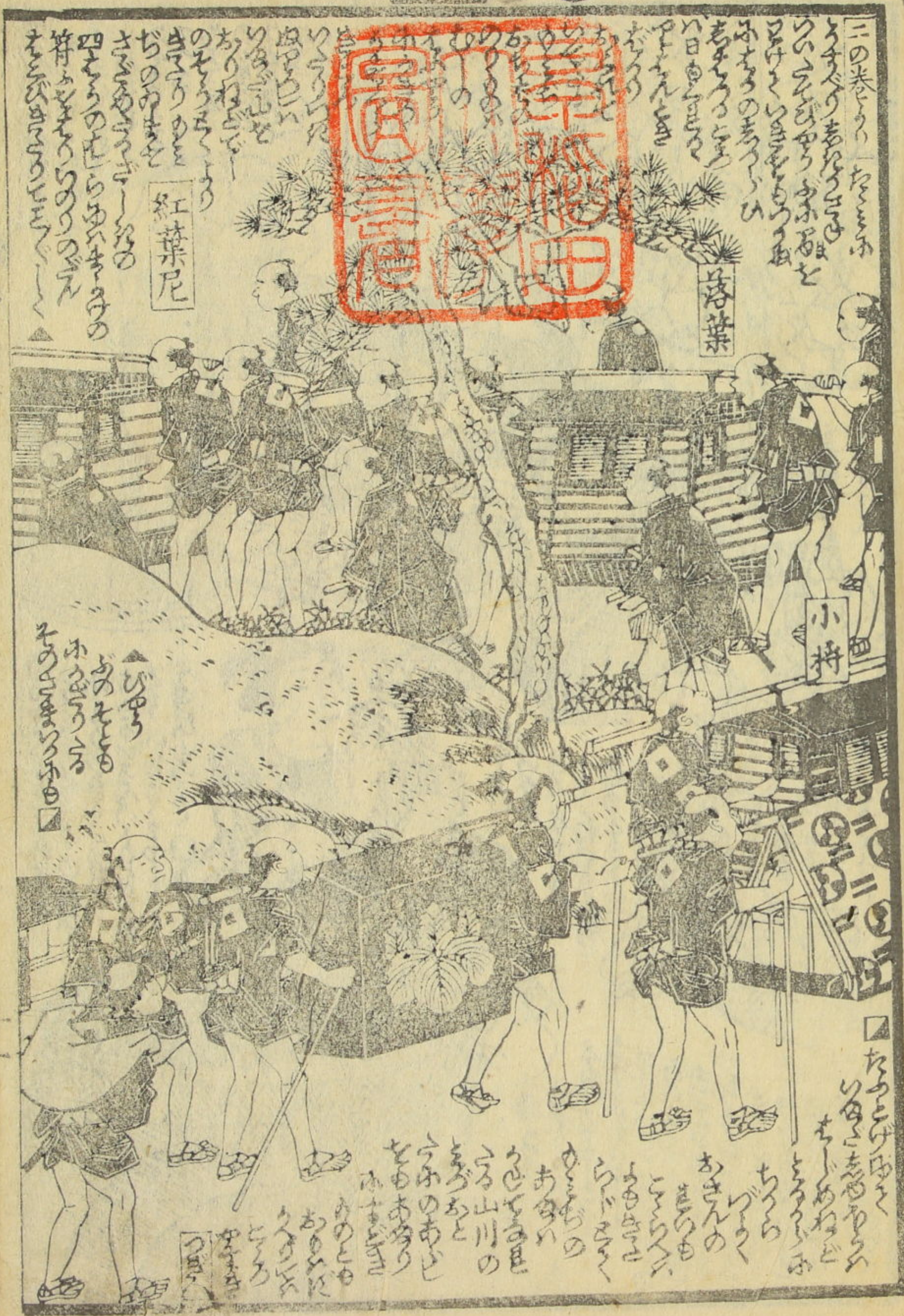


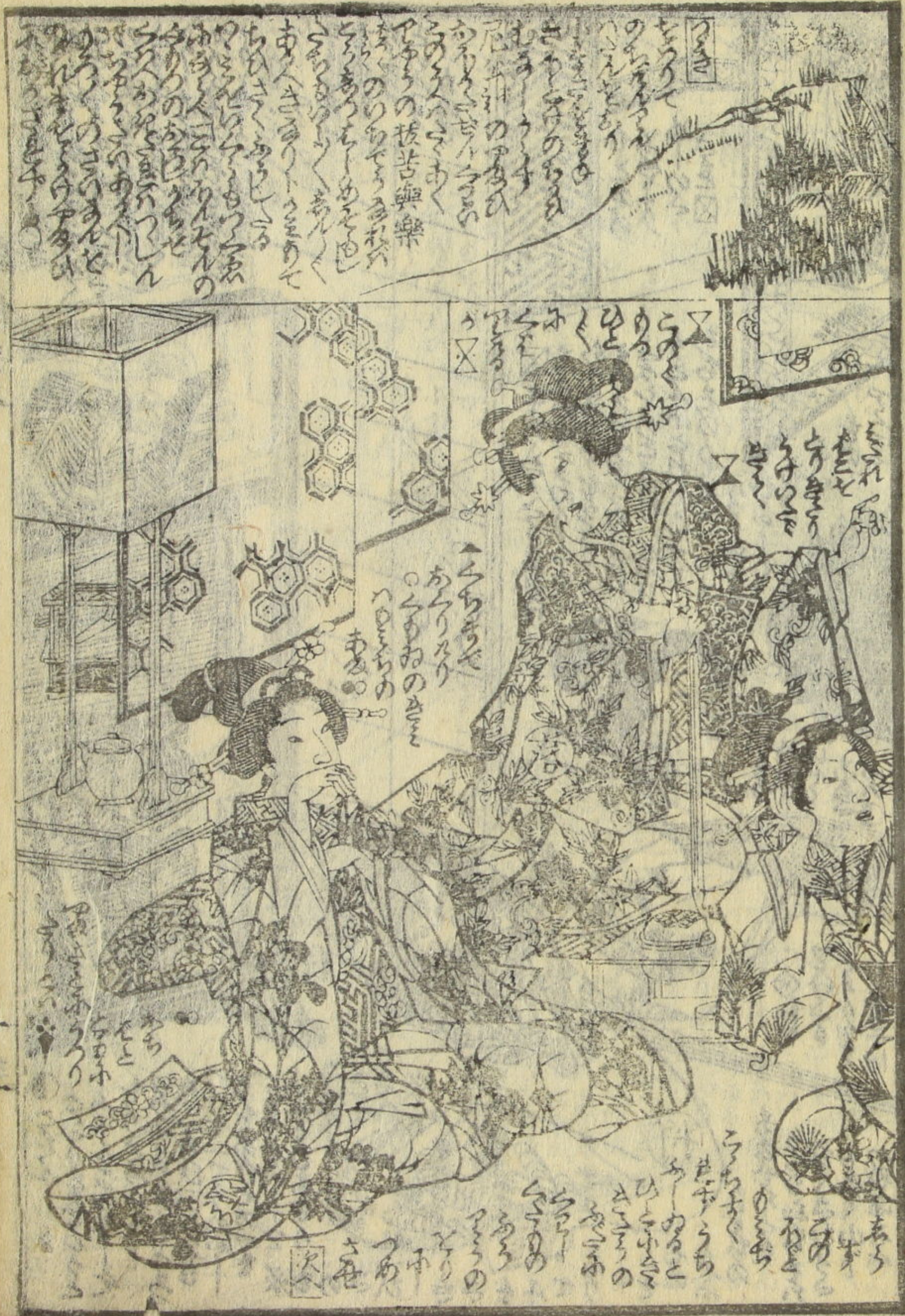
門 へ 13
 號 3730
 卷 44

種彦著 芳虎畫

其由縁鄙俚 第二十二編下帙

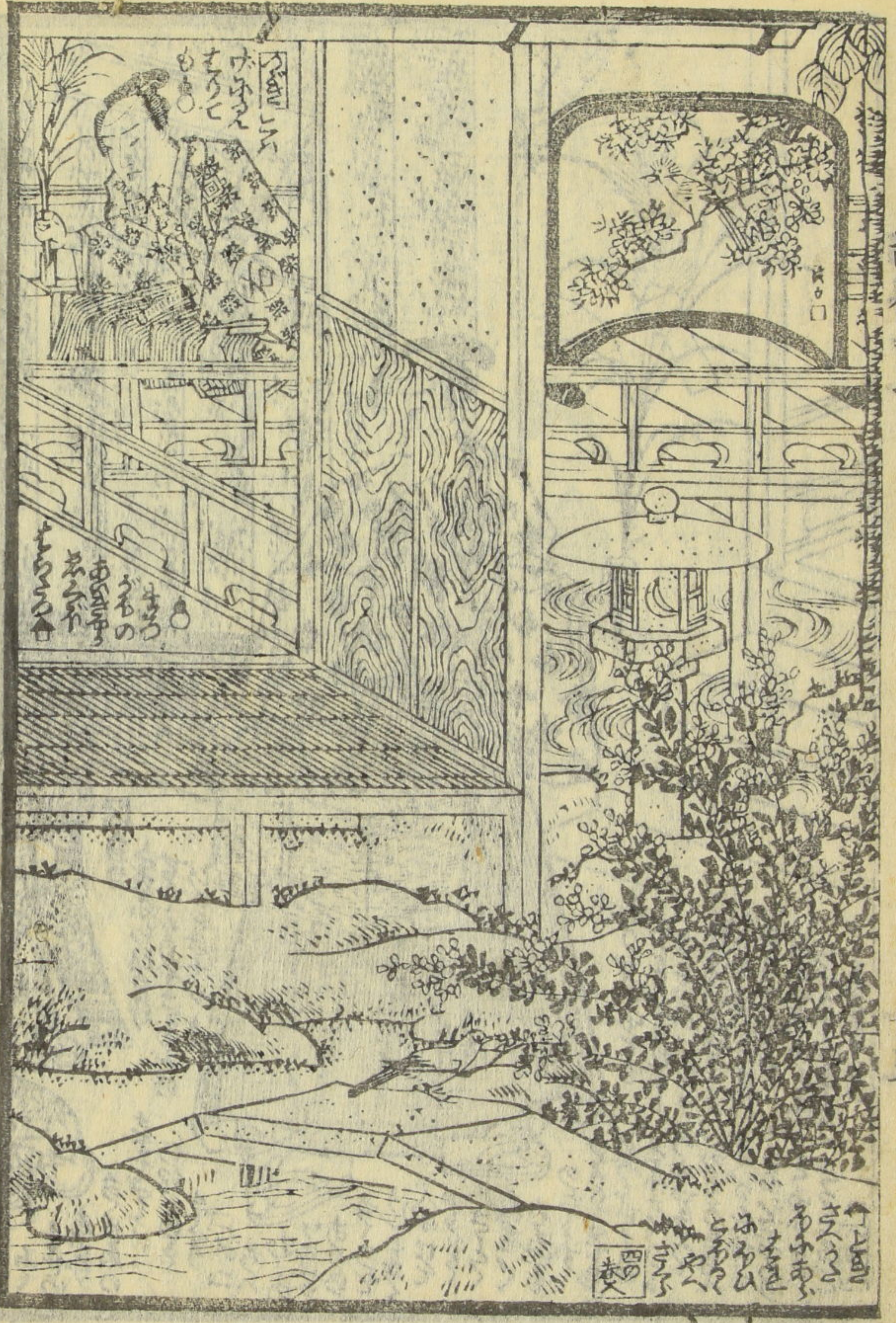
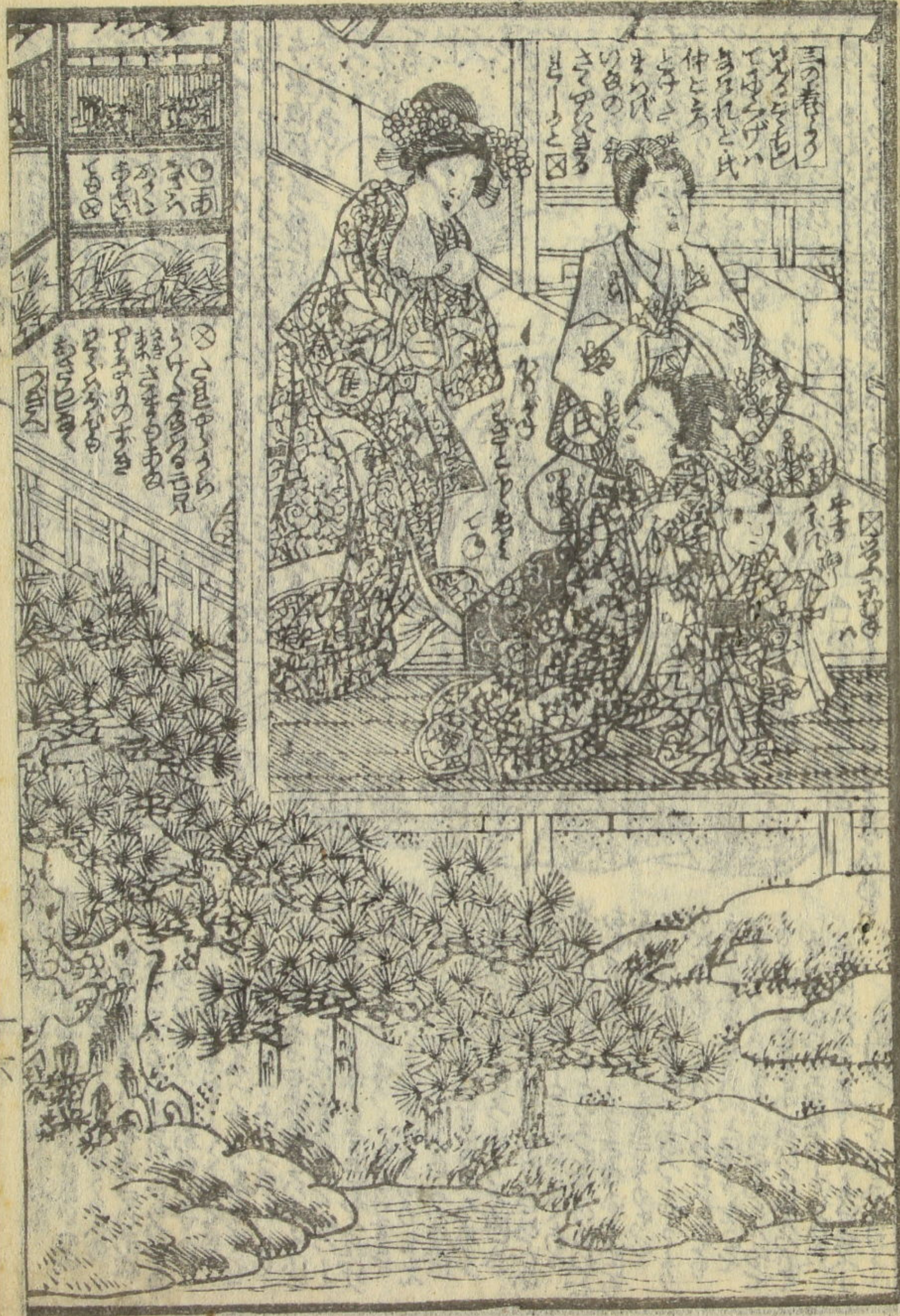
錦昇堂発兌





小野の山に

立日無



景行十

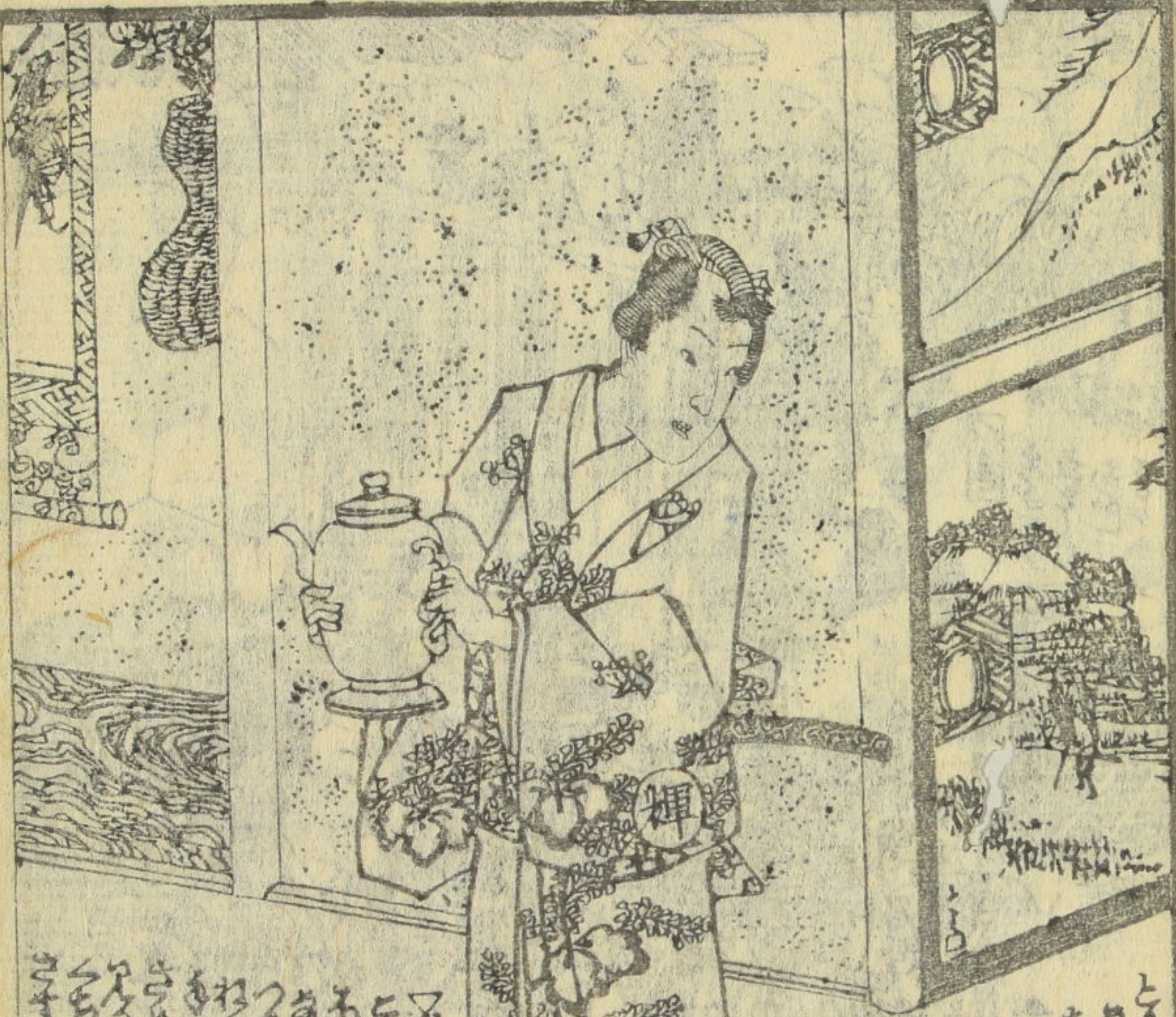
七



左の女は... (The woman on the left...)
 右の女は... (The woman on the right...)
 ... (Additional vertical text)



... (Vertical text on the right side of the illustration)
 ... (Vertical text on the left side of the illustration)
 ... (Additional vertical text at the bottom)



ていつていつとあつちを
あつちをいついつとあつちを
あつちをいついつとあつちを
あつちをいついつとあつちを

あつちをいついつとあつちを
あつちをいついつとあつちを
あつちをいついつとあつちを
あつちをいついつとあつちを

あつちをいついつとあつちを
あつちをいついつとあつちを
あつちをいついつとあつちを
あつちをいついつとあつちを



あつちをいついつとあつちを
あつちをいついつとあつちを
あつちをいついつとあつちを

あつちをいついつとあつちを
あつちをいついつとあつちを
あつちをいついつとあつちを
あつちをいついつとあつちを

